



注 1) 区分は、●を項目は、番号○の付いたものを適用する。		
注 2) 特記事項のうち上選択する事項は○の付いたものを適用する。ただし、○印のない場合は※印を適用する。○印 ※印の 場合は両方を適用する。		
衛生器具設備		
区分	項目	特 記 事 項
○	1. 大変容・小変容 小便管用洗水排水 装置 3. 自動水栓 4. 風呂大水量の排水 処理 5. 衛生器具と排水管 接続	陶製注意板は、取付ける（・ 自動洗浄小便器は除く）・ 取付けない ※ 個別排水方式（電流供給方式：電圧 100V）・ 兼用型（兼用洗水電流） 兼用型は、電圧・水量調整機能を除き必ず兼用型とする。 電流供給方式 ※ AC100V・電圧電流・兼用洗水電流 標準図（施工 616（a））※ (2) ・ (1) ※ 標準図（施工 614） ・ 標準図（施工 615）
●	1. 排水器 (1) 根メーター ※ 兼用 ・ 買取り (2) ナメーター ※ 買取り ・ 兼用 (3) 根メーター用 ※ 水道事業者の指定品 ・ 標準図（図 57） (4) ナメーター用 ※ 標準図（図 57）・ 水道事業者の指定品 (5) 一般配管用 ※ 塩ビライニング鋼管（SGP-VB）（SGP-FVB） ポリ粉体鋼管（SGP-PA）（SGP-FPA） ステンレス鋼管（SGS304）・ ステンレス鋼管（SUS316） 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（H1VP）	※ 兼用して適用の場合の 使用区分は表示による
給	(2) 土間配管用 ※ 塩ビライニング鋼管（SGP-VB）（SGP-FVB） ポリ粉体鋼管（SGP-PD）（SGP-FPD） ステンレス鋼管（SGS304）・ ステンレス鋼管（SUS316） 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（H1VP）	
水	(3) 屋外中用 ※ 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（H1VP） 塩ビライニング鋼管（SGP-VB）（SGP-FVB） ポリ粉体鋼管（SGP-PD）（SGP-FPD） ステンレス鋼管（SGS304）・ ステンレス鋼管（SUS316）	
設	(4) ビニル管の接合方法 ※ 接合継合 ・ ゴム継合 ※ 81φ以上の接合方法 50A以下・ 継ぎ継手 ・ 金属継手 75A以上継ぎ継手 (5) ゴム継合の場合、管首又は継ぎ部には補助防止金具を付する。 (7) 特記なき給水用の最小口径は 20Aとする。 (8) ステンレス鋼管を使用する場合は下記の配管の仕様を行う。 電気伝導率、MFLカリ度、カルシュームイオン、マグネシウムイオン、全硬度、重炭酸イオン 遊離塩素、塩素イオン、シリカ、亜硫酸物質	
備	4. 弁類 (1) 公営工場に直結する配管に使用するものは、JIS又はJVS（10K）とする。 (2) 高圧タンクに引当の配管に使用するものは、JIS又はJVS（5K）とする。ただし、特記部は （10K）とする。 (3) 給水引込口部の ・ 止水栓 ・ 弁類 は水道事業者の指定品とする。 ・ 施工しない 新築後、ステンレス製タンクの保護 ・ 施工する ・ 施工しない (4) 共通性特許による（側溝を含む） ・ 水道事業者指定品 ※ 合成樹脂製 ・ 入造石又は樹脂 ・ アルミニウム合金製 (5) 屋外の水栓は ・ キーハンドル ・ 一般水栓 (6) 台所流し用の水栓は流水式とする。 9. FRP製タンクの マンホール FRP製及びびん製水栓（流水型）は、マンホールも流水型とする。	
○	1. 配管材料 (1) 屋内排水管 ※ 硬質塩化ビニル管（VP） ・ 鉛・鉛二層硬質塩化ビニル管（VP） （第1表まで含む） ・ 排水用塩ビライニング鋼管（白管） ・ コーティング鋼管（・ ノンラールエポキシ ・ 塩化ビニル） ・ 植物排水用リサイクル発泡3層硬質塩化ビニル管（RF-VVP）	※ 兼用して適用の場合の 使用区分は表示による
排	(2) 屋内排水管 ※ 硬質塩化ビニル管（VP） ・ 鉛・鉛二層硬質塩化ビニル管（VP） （第1表まで含む） ・ 配管用炭素鋼管（白管） ・ 鉛管 ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ・ コーティング鋼管（・ ノンラールエポキシ ・ 塩化ビニル） ・ 植物排水用リサイクル発泡3層硬質塩化ビニル管（RF-VVP）	
水	(3) 通気管 ※ 硬質塩化ビニル管（VP） ・ 鉛・鉛二層硬質塩化ビニル管（VP） ・ 配管用炭素鋼管（白管） ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ・ 植物排水用リサイクル発泡3層硬質塩化ビニル管（RF-VVP）	
設	(4) 屋外排水管 ※ 硬質塩化ビニル管（VU） ・ 硬質塩化ビニル管（VP） ・ コンクリート管（外径1種B形） ・ 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（H1VP） ・ 排水用リサイクル発泡塩化ビニル管（REP-VU） ・ 下水道用リサイクル発泡3層硬質塩化ビニル管（RS-VU）	
備	2. ガラス製排水器 ※ 工場製作品（※ SUS製 ・ 鉄製 ・ FRP製） ・ 現場施工品 ・ 耐火板製 ・ 標準図（施工 616（a））を施工する。 ・ 施工しない	
ガ	1. 配管材料 (1) 一般配管用 ※ 配管用炭素鋼管（白管） (2) 一般配管（ビッド内） ※ 合成樹脂被覆鋼管 ・ 配管用炭素鋼管（白） (3) 土間配管 ※ 合成樹脂被覆鋼管 ・ ガス用ポリエチレン管（JIS-K6774） (4) 土間中配管 ※ 合成樹脂被覆鋼管 ・ ガス用ポリエチレン管（JIS-K6774） ・ 10K ・ 20K ・ 50K ※ 兼用 ・ 買取り (1) 軟メーターは ・ ガス事業者より借用 ・ 買取り (2) ナメーター ※ 買取り ・ ガス事業者より借用 自動切替式・施工方法は標準図（施工 722）の（a） ・ （b） ・ （c） 施工方法は標準図（施工 723）の（a） ・ （b） ※ 要（取付位置は表示による）外、部材及び材料（不要 ・ 要） ・ 不要 管継ぎに制約、遮断弁（又はマイコン端子）までの電線は ・ 別途電気工事 ・ 本工事 ・ 流量検知型（切替又は圧力監視型） ・ 圧力検知型 ビニル被覆支持金具、又は配管クランプと電気防錆テープ巻き 都市ガスはガス供給事業者の供給約款による。	
給	2. 炭化石油ガス容器 3. ガスメーター 4. 容積調整の配管 5. 容積調整防止 6. ガス検知警報器 7. 消滅検知装置 8. 配管充填物 9. その他	

○ 給 排 設 備	1. 配管材料	※ 保温付被覆配管 ・ 鋼管 ・ 防熱性ライニング配管 ・ ステンレス鋼管 ※ 湯沸器、給湯器廻りの付属配管等は別途基準値品とする。 ※ JIS又はJVS (SK) とする。ただし、水道直結部分及び特配部分は (10K) とする。 通水道の給排水管の箇所は保温を行う。 h (I) 取
	2. 弁類 3. 保温	
○ 消 火 設 備	1. 消火栓の担任	※ 10K ・ 16K
	2. 配管材料	(1) 一般配管用 ※ 配管用炭素鋼配管 (白管) ・ (2) 一般配管 (ピット) 用 ※ 外面被覆鋼管 ・ 配管用炭素鋼管 (白) (3) 中配管用 (土間を含む) ※ 外面被覆鋼管 ・ (1) 押水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する (2) 充水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する (3) 消火栓の保温は次のとおり
○ 浄 化 槽 設 備	3. 保温	※ 屋内消火栓 ※ 施工しない ・ 施工する ( ・ 屋外露出 ・ 給水管に準じる範囲) ※ スプリングラウ ※ 施工しない ・ 施工する ( ・ 屋外露出 ・ 給水管に準じる範囲) ※ 屋内消火栓 ※ 易燃性1号消火栓 ・ 屋内2号消火栓 ※ 鋼板製 ・ ステンレス鋼板製等 (機器表による)
	4. 屋内消火栓箱 5. 屋外消火栓箱、 ホース巻掛架 6. 新ガス系消火剤の 種類 7. 新ガス系消火の起 動方式 8. 二酸化炭素消火の 起動方式	・ IG-541 ・ IG-55 ・ 窒素 ・ HFC-227ea ・ HFC-23 ※ 手動 ・ 自動、手動切替式 ※ 手動 ・ 自動、手動切替式
○ 浄 化 槽 設 備	1. 処理種別及び方式	・ 小規模合併処理 ( ※ 団体施設方式 ・ 兼養床接触ばっ気方式 ・ ・ 緩速床接触ばっ気方式 ・ 分離接触ばっ気方式 ) ・ 合併処理 ( ・ 接触ばっ気方式 ・ 長時間ばっ気方式 ・ 固定床接触方式 )
	2. 形式 3. 処理能力 4. 放流水質	※ ユニツト形 ・ 環流槽工形 処理対象人員 _____ 人 処理水量 _____ m <sup>3</sup> /d 流入 BOD濃度 _____ mg/l BOD _____ mg/l 以下 _____ mg/l 以下
○ 浄 化 槽 設 備	5. 埋戻し 6. 消毒薬 7. その他	※ 埋戻し土中の長草土 (FRP構内側は山砂の類) ・ 埋戻土 3ヶ月分相当を納入する。 性能検査施工とする。 年度末6ヶ月間流入、放流のSS、BOD、PH、透し度、大腸菌数等を報告する。

区分項目特記事項

1. 設計用温度条件

外気条件

室内(調整項目)条件

一般系統

温度(℃)湿度(RH%)温度(℃)湿度(RH%)  
夏季28.0℃50%  
冬季19.0℃40%

2. 冷水・温水・冷温水管

※配管用炭素鋼管(白管)

※ステンレス鋼管(SUS304)

3. ドレン管

※配管用炭素鋼管(白管)

※硬質塩化ビニル管(VP)(F-RVP)

4. 給湯水管

※配管用炭素鋼管(白管)

※ビネライニング鋼管

※ポリホチメ鋼管

5. 膨張・空気抜・補給水管

※配管用炭素鋼管(白管)

※ステンレス鋼管(SUS304)

6. 空調用給水管

※ステンレス鋼管(SUS304)

※フレザイニング鋼管

※ポリホチメライニング鋼管

7. 蒸気熱配管

※配管用炭素鋼管(黒管)

※配管用炭素鋼管(黒管)

8. 高気密配管

※圧力配管用炭素鋼管(STPG370 黒sch40)

※配管用炭素鋼管(黒管)

9. 油・油通過配管

※配管用炭素鋼管(黒管)

※高耐材炭素鋼管

※銅管

10. 冷排管

JIS又はJWS(5℃)とする。ただし、特注部分(10K)とする。

11. 弁類

※普通開閉弁

※冷温水管の接継部(以下にはボール・バルブを取り付ける。

12. 7分2(3分2)

・変速金具(・ギヤ付)は減速金具等、

・トラップ(7分2以上)を取り付ける。

※床裏形にはサブドレンを設けるものとし、材料率とはドレンに準ずる。

13. 天井吊り形FCU及び全気取換形換気扇

(1)遠方操作スイッチのフラッシュプレートは金属製(アルミ、亜鉛めっき含む)とする。

(2)遠方操作スイッチの取り配線

別途工事

本工事

(3)遠方操作スイッチの取り配線

別途工事

本工事

14. 吹出し・吸込口

(1)アルミニウム製は塗装を※行う

行わない

鋼板製

(2)吸込口GVSFは防火シャッター機能を含むとする。

15. ダクト

(1)低圧ダクト

高圧1ダクト

高圧2ダクト

(2)彫形ダクトは

アンクルラジ工法

※コーナールート工法(共振工法)

※付アワジ工法(防振用ダクトはアンクルラジ工法とする。)

16. 燃焼ダクトの場合

(3)耐火気密性を満たすダクトは、その真通する部分の厚径150mmを1.6mm厚鋼板製とする。

(4)燃焼ダクトの標準厚径ダクトの場合

(単位:mm)

ダクトの長辺	ステンレス鋼板	亜鉛鉄板
450以下	0.5以上	0.6以上
450を超え1,200以下	0.6以上	0.8以上
1,200を超え1,800以下	0.8以上	1.0以上
1,800を超えるもの	0.8以上	1.2以上

円形ダクトの場合

(単位:mm)

円形ダクトの寸法	ステンレス鋼板	亜鉛鉄板
300以下	0.5以上	0.6以上
300を超え760以下	0.6以上	0.8以上
760を超え1,000以下	0.8以上	0.8以上
1,000を超え1,250以下	0.8以上	1.0以上

17. 防熱ダンパー

(1)防熱ダンパーは塗装色により区分する。

(2)防熱ダンパー

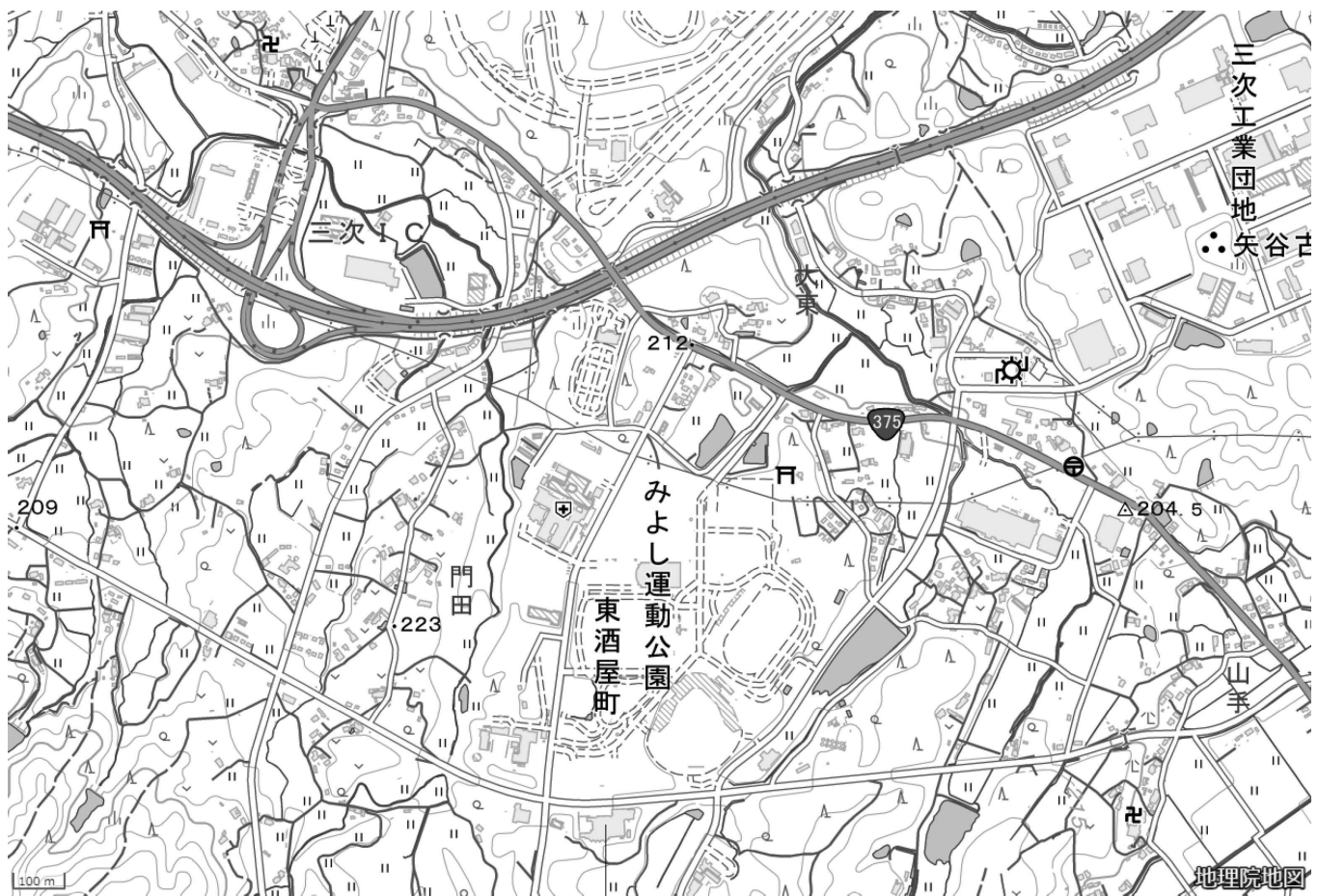
償得方式:通風償得式(実格入力値は0.24V、0.7A以下とする。)

(3)スタンドダンパー

償得方式:通風式

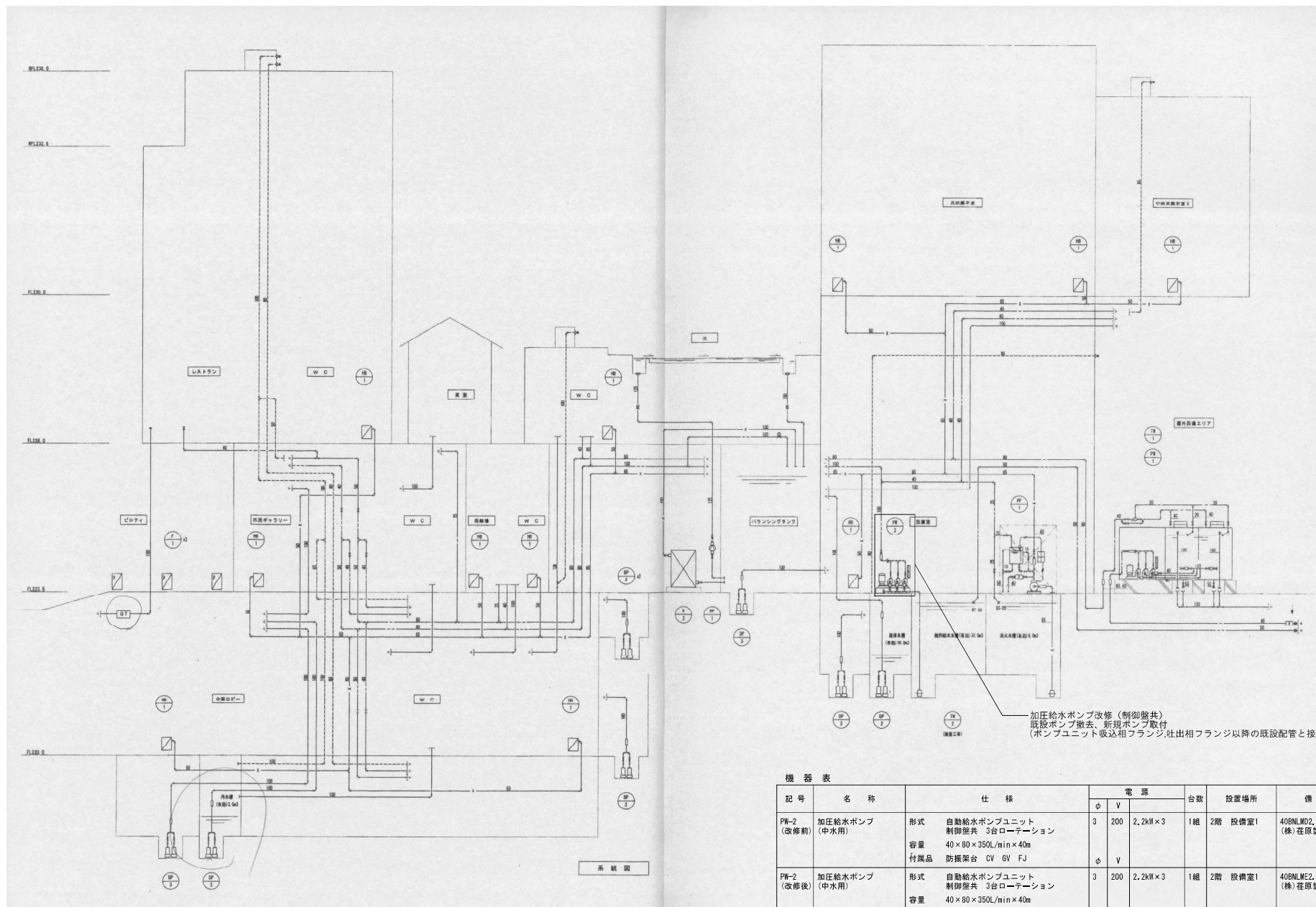
O 空 気 調 和 機 具	17. 風量測定口 18. チャンパー等	取付け位置は図示による。 (1) 排気取出口には、接続チャンパー（長さ+100×300×300H）を設ける。 (2) シーリングディフューザーの接続は標準図（施工47）による。 施工が困難な場合はフレキシブルダクトを使用してもよい。 (3) 天井に置けるガラリにチャンパー等をつける場合には原則として排水を考慮する。 (1) 空調用取出口接続チャンパー及び図示したダクトにはチャンパー端とする。 (2) 内貼りチャンパー端とする場合は、外法注法とする。 (3) 取出口接続チャンパー以外の内貼りしたチャンパーには点検口を設ける。 点検口の大きさは、原則として400×600とする。 グリズス式コイルクーラー・グリズス型ファン (1) 形式はメーカー（商品タイプ）による。 ※ 着床式 ※ 固定式 (2) 下記の箇所、若しくは図面に示すに取付ける ・ 冷凍機間の冷却水出口 ・ 間隙潤滑計 ・ 測定用タッピング ・ 冷凍機間の冷却水出口 ・ 間隙潤滑計 ・ 測定用タッピング ・ ボイラークラシは熱交換器間の温水出口 ・ 間隙潤滑計 ・ 測定用タッピング ・ 冷却水ヘッダーの各送りの管 ・ 間隙潤滑計 ・ 測定用タッピング ・ ユニット形空気調節機の冷却水入口 ・ 間隙潤滑計 ・ 測定用タッピング ・ メカニカル形 ・ 風速センサー形
	20. グリズ除去装置 21. 間隙潤滑計及び 流量測定口	標準図によるほか図示した箇所及び下記の箇所に取付ける。 ・ ユニット形空気調節機送りの送風ダクト、外気ダクト及び給気ダクト
	22. 定風量 風量ユニット 23. 温度計	
	24. 圧力計	機器附品以外の温度計は ※ 工業用バメタル温度計 ※ ガード付きし形温度計 標準図によるほか図示した箇所に取付ける。 (1) 空室温度を生ずるとする場所には、必要に応じて操作の容易な位置に空室抜き弁装置（※ 手動、※ 自動）を設け排水口まで配管する。 (2) 自動空室抜き弁装置は、標準図（施工36（g））による (1) 厚さ ※ 3、2mm ※ 2、5mm (2) 採煤温度計 ※ 取付けない ※ 取付ける (3) 採煤室温度計（806×2）を ※ 取付けない ※ 取付ける 機器仕様書によるほか、中央冷暖房の冷却水管、冷却水管、及び空室温度ユニット等の吊り、及び支持は、標準図及び図示した方法で実施を行う。 油圧計はメーガス社（横正社）とする。
O 空 気 調 和 機 具	26. 鋼板製保温 27. 防振吊り及び支持 28. オイルサービス タンク 29. 地下オイルタンク	(1) 取付け方法（標準図）は ・ 地下オイルタンク取付け図（施工31） ・ 鋼製強化プラスチック製二重設法タンク取付け図（施工30） (2) 鋼板等タンクの保護装置は ※ エキホキ樹脂 ※ 強化プラスチック (3) 送油管指示装置（電気式）は ※ 室内 ※ 室外より油室取付機を取付ける。 (4) 管接は ※ 不要 ※ 要（組）は ※ 別途工事（本工事） (5) 生油の工事は ※ 不要 ※ 要（※ 本工事 ※ 別途工事） ① 送油管取付装置の取付けは下記による。 ・ 給油ポンプの取付け、停止 ・ 送油ポンプの取付け停止 ※ 満油警報 ・ 満油警報 ・ 送油警報機（※ 満油 ※ 満油） (2) 給油ポンプのあるシステムでフロートスイッチの上フロートは、過満警報機とする。 ※ 設ける（図示した箇所には取付ける） ※ 設けない 空調用給油管等又はフィルターチャンパーの取付け枚数の100%を予備品（枠付）として納める。 ファンコイルユニットは総台数の約50%に当たるフィルター予備品（枠付）として納める。 自動取付形及びグリースフィルター（標準取付枚数の100%を予備品として納める）とする。 空調用室の水質基準は、日本冷凍空調工業会（冷凍空調機水質ガイドライン）による。 ※ R407C、R410A又はR32 ※ 形式 管管式又は管管式 形式 低圧管型、超低温管型（規定は、日本冷凍空調工業会の管管基準による）。 インバーター機の表示された能力は、規定を超過する。
	30. 液面制御装置	
	31. 油室取付機 32. フィルターの 予備品	
	33. 水質基準 34. 冷却水 35. 冷却水の 温度表示	
O 排 短 設 備	36. 水質基準 37. 冷却水の 温度表示 38. 水質基準 39. 冷却水の 内外流配線	製造業者の標準品とし、原則として冷暖管と共通とする。（エアコン含む）
	40. 水質基準 41. 冷却水の 温度表示	
	42. 水質基準 43. 冷却水の 温度表示	
	44. 水質基準 45. 冷却水の 温度表示	
O 自 制 御 機 具	1. 一般事項 2. 圧力計 3. 採煤口 4. 排気口取付図及び配管方式 5. 排気口標準寸法	空調、換気の当該事項を適用する。 ※ 高圧1ダクト ※ 高圧2ダクト ※ 鉄板板製 ※ 鋼板製 ・ バナル形（※ 天井取付 ※ 壁取付） ・ スリット形（※ 天井取付 ※ 壁取付） ・ ダンパー形（※ 天井取付 ※ 壁取付） 電気式（遠隔操作 ※ 不要 ※ 要） 建築設備定期検査実施基準等平成20年度版（一財）日本建築設備（設備センター）の排気直量の検査方法に準ずる。
	1. 中央空調制御装置 2. 電源設備 3. 温度調節器等 4. 計装工事の記録	・ 有り（機能確認は図示による） ※ 無し ・ 要（※ 本工事 ※ 別途工事） ※ 不要 取付け高さ ※ 1300mm (1) 屋外、屋内露出の配線は、図示しに特記がない限り金属管配管とする。 天井吊り配線は、図面に特記のない限りダクト配管と配管とする。 (2) 原則として、次の用途に使用する電線管はEMケーブルとし、規格は一般事項17、電線管の規格による。 （例：照明、空調、配線はすべて電線管） 用途： ①電線管、接地線 ②電気式の照明器具（サモ、ヒューミデ）用電線 ③各種配線（温度、湿度等）計測器（バルブ、ダンパー等）における 信号電線、通信線を除く制御線

[illegible]



工事場所：三次市東酒屋町10453-6（奥田元宋・小由女美術館）

<div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div>			<div> <div></div> <div></div> </div>	<div> <div></div> <div></div> </div>	<div> <div>工事名称</div> <div>奥田元宋・小由女美術館 加圧給水ポンプ改修工事</div> </div>	<div> <div></div> <div></div> </div>	<div> <div>付近見取図</div> <div>N.S.</div> </div>	<div> <div>図面番号</div> <div>M-03</div> </div>
--	--	--	--------------------------------------	--------------------------------------	---	--------------------------------------	---	--



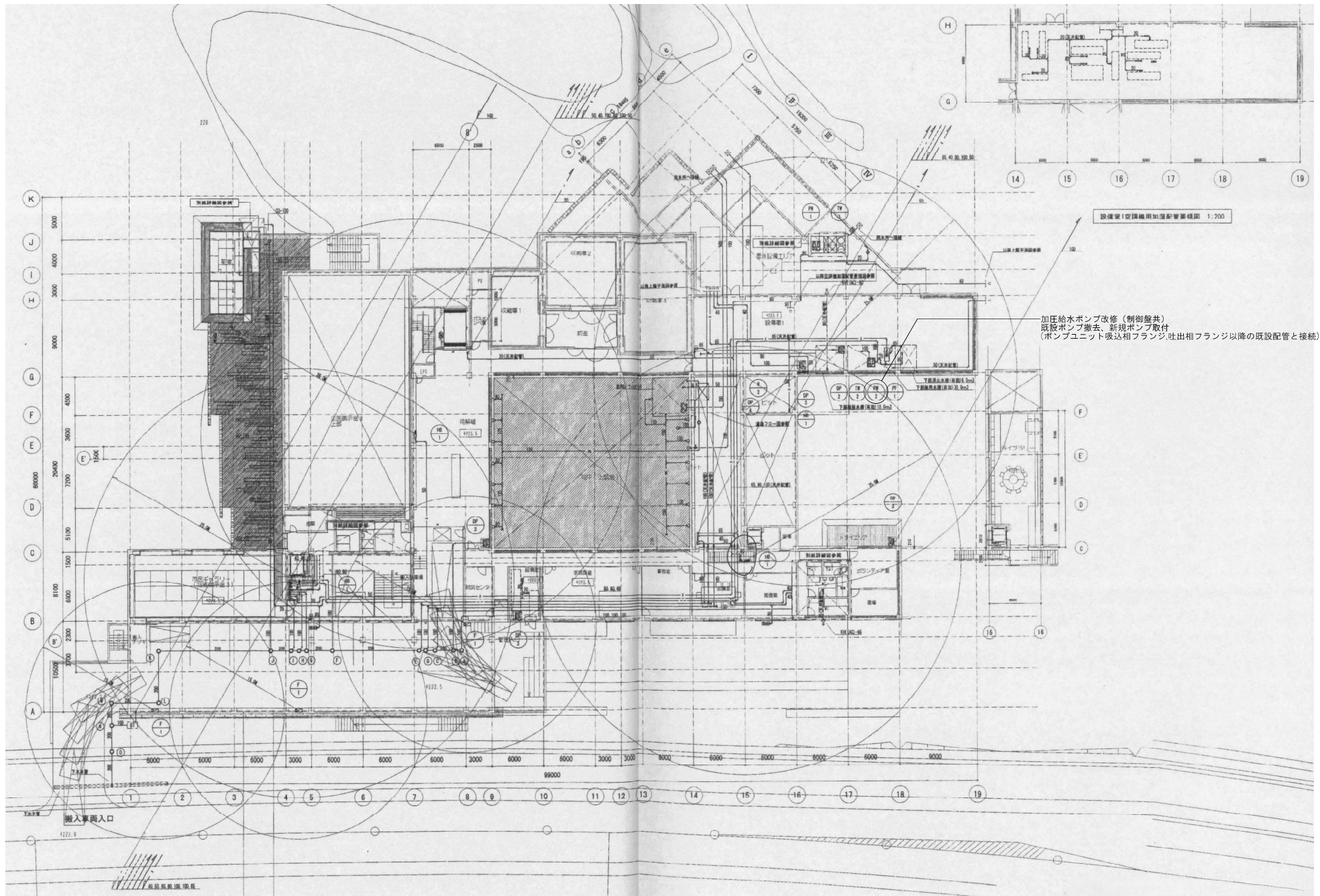
機 器 表

記 号	名 称	仕 様	電 源		台数	設置場所	備 考
			φ	V			
PW-2 (改修前)	加圧給水ポンプ (中水用)	形式 自動給水ポンプユニット 制御盤共 3台ローテーション 容量 40×80×350L/min×40m 付属品 防振架台 CV GV FJ	3	200	2.2kW×3	1組 2階 設備室1	40BNLMD2.2A (株) 在原製作所
PW-2 (改修後)	加圧給水ポンプ (中水用)	形式 自動給水ポンプユニット 制御盤共 3台ローテーション 容量 40×80×350L/min×40m 付属品 防振架台 CV GV FJ (全て既設再利用)	3	200	2.2kW×3	1組 2階 設備室1	40BNLME2.2N (株) 在原製作所

図	

機 器	機 器	工事名称	図 説	衛生設備 系統図	設備番号
		奥田元宋・小由女美術館 加圧給水ポンプ改修工事		N.S.	M-04
					図 説





<div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div>		<div> <div></div> <div></div> </div>	<div> <div>校 図</div> <div>備 図</div> <div>工事名称</div> <div>奥田元宋・小由女美術館 加圧給水ポンプ改修工事</div> </div>	<div> <div>図 説</div> <div>衛生設備 2階平面図</div> <div>縮 尺</div> <div>1/400</div> </div>	<div> <div>図面番号</div> <div>M-05</div> <div>頁 数</div> <div>2</div> </div>
--	--	--------------------------------------	---	---	--